（第三種郵便物認可）消費税込み定価１ヶ月3,000円・１部120円　日曜休刊

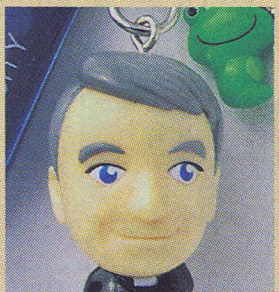
マイウェイ my way

見つからぬ答え

シカゴ大学に留学中のある夏、「クールビズ」はまだ発明されていない時の話である。季節に適切な服装、つまりTシャツで授業に行ったら、一人の学生に話しかけられた。「南山大学の留学生別科はどう？」、と。私が着ていた、別科の名称がプリントされたTシャツが、この質問のきっかけであった。語学留学を考えていた彼は、色々調べたところで南山大学のプログラムは評判が良いと聞いたのである。南山大学の教員になることを目指して勉強していた私にとって、思いもよらないところで「南山」のブランド価値を確認できた嬉しいニュースであった。もちろん、別科の修了生でないことを正直に認めたが、「歩く広告」としてそれなりの効果があるのだ、と思ったものである。

南山大学学長　**ミカエル・カルマノ**　36

後生へ残したいものは…



学長ストラップ（左は初代、右が二代目）

2008年の4月学長に就任して直ぐに分かったが、大学の専任教員や管区長、そして理事長のときとも違って、学長となると世間への発信は多様化する。Tシャツで南山の宣伝する機会は、職務上、ほとんど許されていないが、オープンキャンパスなどの時は、学長は、教職員と同じ南山大学のロゴが入っている白い（手伝いの現役の学生は黄色い）ポロシャツを着て、受験生にアピールすることも重要な仕事である。こうしたイベントで、開会のあいさつをしたり、「学長と語ろう」コーナーで高校生とその親の質問に答えたりするのは、南山大学の実態とイメージを伝え、説明する絶好のチャンスとなっている。

ところで、このような広告活動は全て「ライブ」であるわけではない。JR東海の新幹線駅やCENTRAIRの国際線出発ロビーのポスターなどを使って、広報を担当する部署は、一所懸命学長を「南山大学の顔」として位置づけようとしてくれている。とはいえ、化粧とカメラマンからの「笑顔をお願いします」という注文を伴う写真撮影は必ずしも楽しい経験ではない。その点で所謂「学長ストラップ」は違う。私の前任者から始まった習慣であるが、南山グッズには学長の似顔がついた携帯ストラップがある。ミカエル学長になってから、先ず「美蛙」、その次には「三蛙」のデザインが登場した。無論、教育・研究を大事にする南山大学のイメージを「カエル」企画ではないのでご安心を。